TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵　結婚している人と結婚していない人へ
コリントの信徒への手紙一 7:1-16

2025年3月8日＆9日
余沢　武 牧師

I. はじめに

こんにちは。1コリントのシリーズを続けます。先週は、クリスチャンが性的に不道徳な罪を犯す時、キリストの体とキリストの御霊をそこに巻き込み、神の神殿になるために私たちを買い取られた主なる神に背くことになると学びました。

今日は、結婚と性的関係や結婚をどのように扱うべきかを見ていきます。祈ります。

II. 結婚している人と結婚していない人へ

（1） 結婚しているへ

1コリント 7:1 「[1] さて、そちらから書いてよこしたことについて言えば、男は女に触れないほうがよい。」

パウロはコリントの教会から来た手紙に返信しました。コリントから来た手紙には、「男は女に触れないほうがよい」と書いてありました。

おそらく、このようなことでしょう。パウロが性的不道徳を強く反対していたので、コリントの教会の信徒たちはすべての性的関係が悪だと思ってしまいました。御霊によって天国のために準備されていて、天国では結婚も性的関係もないですから、このように結論づけたのです。

結婚していても、性的関係は避けた方が良い。
配偶者と離婚するべきであり、特に配偶者がノンクリスチャンなら尚そうするべきである。
もし男や夫が、どうしても自分の情欲を満たす必要があるなら、娼婦のところに行けば良い。これはおそらく、先週見た誤った教えに導いたことでしょう。

パウロはこのように言っています。

1コリント 7:2-4 「[2] しかし、淫らな行いを避けるために、男はそれぞれ自分の妻を持ち、女もそれぞれ自分の夫を持ちなさい。[3] 夫は妻に対して、同様に妻も夫に対してその義務を果たしなさい。[4] 妻は自分の体を意のままにする権利を持たず、夫がそれを持っています。同様に、夫も自分の体を意のままにする権利を持たず、妻がそれを持っています。」

パウロは言います。「いいえ。性的関係は配偶者への義務です。」

1コリント 7:5-7 「[5] 互いに相手を拒んではいけません。ただし、合意の上で、祈りに専心するためにしばらく別れ、また一緒になるというなら話は別です。あなたがたが自制する力がないのに乗じて、サタンが誘惑しないとも限らないからです。[6] もっとも、私は譲歩のつもりで言うのであって、命令するつもりはありません。[7] 私としては、皆が私のようであってほしい。しかし、人はそれぞれ神から賜物をいただいているので、人によって生き方が違います。」

パウロは**「互いに拒んではいけない」**と言っています。「拒む」とは「奪う、盗む、騙し取る」という意味です。

何年か前、美樹とランチブッフェに行きました。入口でいくつかからのオプションを選ぶ必要がありました。すべてが含まれているオプションは少し高かったものの、ローストビーフがついていました。私たちは「それにしよう」と決めました。

しかし、いざローストビーフを取りに行ったら、誰もいませんでした。ただ小さい看板が一つあり、「お待ちください」と書いてあるだけです。ローストビーフは最後まで食べられませんでした。限られた時間だけ提供していたようです。騙し取られた気分になりました。

パウロは、このようにして夫や妻が自分の配偶者から騙し取る―提供をやめる―と言っています。唯一例外が許されるのは祈りに専心する期間だけ、と彼は言います。しかし、それさえも一時的な譲歩にするべきです。

これは結婚をサタンの誘惑から守るためにある神から与えられた方法です。

(2)結婚していない人へ

二つ目に、パウロは未婚者が結婚をどのように受け止めるべきかについて述べています。

1コリント 7:8-9 「[8] 独身の男とやもめの女に言いますが、私のようにしていられるなら、それがよいのです。[9] しかし、自制することができないなら、結婚しなさい。情の燃えるよりは、結婚するほうがよいからです。」

ここにある「独身」は「やもめの女」とあわせて男性のやもめを指しています。「未婚」の人について後で述べるためこのように記述しています。
自制の賜物がない人には結婚することが進められています。

一つ覚えるべきことがあります。
1コリント7:39「妻は、夫が生きている間は結ばれていますが、夫が死ねば、望む人と再婚してもかまいません。ただし、相手は主にある人に限ります。」

やもめは「主にある人」、つまり他のクリスチャンと結婚すべきということです。

先週見た通り、イエスを受け入れたとき御霊が私たちの内に宿り、イエスの性質を私たちの内に形成されはじめます。私たちが生きるのではなく、キリストが私たちの内に生きています。私たちの体はキリストの体となったので、キリストの体を罪の内に生きているノンクリスチャンの体と「一体」にしてはなりません。

(1)　独特な結婚へ
三つ目に、パウロは離婚したがるクリスチャンの夫婦が結婚をどう受け止めるべきかを述べています。

1コリント7:10-11「[10]さらに、既婚者に命じます。妻は、夫と別れてはいけません。こう命じるのは、私ではなく、主です。[11]――けれども、別れてしまったのなら、結婚せずにいるか、夫と和解するかしなさい。――また、夫は妻を離縁してはいけません。」

パウロは、この件に関して主イエスが私たちに既に命じてくださったと言います。イエスはこのように言いました。
マタイ19:9「「言っておくが、淫らな行いのゆえでなく妻を離縁し、他の女と結婚する者は、姦淫の罪を犯すことになる。」―唯一例外が生じるのは「性的不道徳」があった場合です。

ルカ16:18「妻を離縁して他の女と結婚する者は誰でも、姦淫の罪を犯すことになる。夫から離縁された女と結婚する者も、姦淫の罪を犯すことになる。」

そのためパウロは妻は夫を離れるべきではなく、夫は妻を離婚すべきではないと言います。

ユダヤ人の間では、離婚は男性側からしかできません。そのため、イエスは男性に限って離婚のことを話していました。しかし、ローマ世界では男女関係なく誰でも、証明書の有無に関わらず離婚を申し出ることができました。当時、配偶者に出ていくようにと伝えるか、自ら出ていくことで離婚が成立しました。

しかし、パウロはクリスチャンの夫婦に対して、性的不道徳を除いては離婚しないように命じています。例え、妻が去って別れたとしても、神の目には彼女はまだ結婚している状態です。

これは今日私たちが別居と呼ぶもので、特に一緒に生活する中で安全でないと感じる場合です。パウロは別れているままか和解することができるが、再婚はできない、と言います。同じことが夫にも当てはまります。離婚してはいけない、と言っています。

四つ目に、クリスチャンとノンクリスチャンの夫婦が結婚についてどう考えるべきか述べています。

1コリント7:12-14「[12]その他の人たちに言います。これを言うのは、主ではなく、私です。ある信者に信者でない妻がいて、その妻が一緒に暮らすことを望んでいる場合は、離縁してはいけません。[13]また、ある女に信者でない夫がいて、その夫が一緒に暮らすことを望んでいる場合も、離縁してはいけません。[14]信者でない夫は、妻によって聖なる者とされ、また、信者でない妻は、夫によって聖なる者とされているからです。そうでなければ、あなたがたの子どもは汚れていることになりますが、実際には聖なる者です。」

パウロはここで、クリスチャンがノンクリスチャンと結婚するべきかどうかについて話していないことに注目してください。なぜなら、クリスチャンはノンクリスチャンと結婚するべきではないからです。ここでは、クリスチャンになる前に結婚していた人々を指しています。しかし、今はクリスチャンになり、イエスの御霊が彼らの内におり、体はイエスの体の一部となりました。

彼らは結婚を持続し、イエスの体を罪の内にいるノンクリスチャンの体と一つにするべきでしょうか。それはイエスの聖なる体を汚すことにならないのでしょうか。

マタイ8:2で、規定の病(ハンセン病)を患っている男がイエスの前にひれ伏して、**「主よ、お望みならば、私を清くすることがおできになります」**と言いました。この「規定の病」は最も恐れられていた病気でした。感染性があり、指、つま先、腕や足が落ちていくものでした。人々は「汚れている、汚れている」と叫んで、他の人たちに警告していました。

実は旧約聖書の全体で、その規定の病を患った人々の中で3人だけが癒されました。モーセ、ミリアム、そしてナアマンです。どうやって治ったのでしょうか。

神が彼らを癒してくださったのです。神だけが規定の病を治せます。そして、規定の病を患っている人がイエスに来て治してくださいと頼んでいます。周りの皆が後ずさりし、イエスに注目していることを想像してみてください。

イエスは手を差し伸べて、その規定の病を患った人に触れました。その時、驚くべきことが起きました。規定の病の汚れがイエスに移る代わりに、イエスの清さ、神聖さが彼に移りました。彼は清くなりました。それが神の神聖さです。

パウロは、これがイエスを信じていない配偶者に起きることだと言います。娼婦と関係を持つクリスチャンは神の神聖さを表すことはできません。なぜなら、その関係は神の御心の外にあるからです。しかし、神が設立した神聖な体系である結婚、神が二人を一人にする中では、神の神聖さは現れます。

そして、信者でない妻と信者でない夫はこのように神聖にされます。そのため、パウロは、ノンクリスチャンの配偶者が一緒に住むことを望むなら、彼らと離婚してはいけないと言います。

ただ、神聖にされるということは、救われることを意味するわけではありません。神によって聖別されているという意味です。それは、クリスチャンの配偶者の生活の中で信仰、祈り、ライフスタイル、そして神の力を目撃するためです。神の力によって変わっていくクリスチャンのコミュニティと接する権利があります。クリスチャンの親を持つ子どもが受ける恩恵のようなものです。

1コリント 7:15-16「[15]しかし、信者でない相手が離れて行くなら、離れるに任せなさい。こうした場合、信者である夫あるいは妻は、結婚に縛られてはいません。神は、平和な生活を送るようにと、あなたがたを召されたのです。[16]妻よ、あなたが夫を救えるかどうか、どうして分かるのですか。夫よ、あなたが妻を救えるかどうか、どうして分かるのですか。」

信者でない相手が離れたいなら、離しても良いです。クリスチャンのほうの相手は縛られていません。つまり、再婚して良いとのことです。もし信者でない相手が留まるなら、その相手が救われるかもしれないからです。

パウロによると、性的な誠実さを含めて、結婚生活や家庭内において誠実さは重要です。それは神が私たちの周りにいる人々を救いへ導くために用いる主な方法なのです。

先日「人はクリスチャンの配偶者を通して本当に救われるのでしょうか。」と考えていました。少なくても10人が、クリスチャン配偶者を通してTBCで救われました。その中で一部の人は今天国にいます。さらにクリスチャンの子供や親を通して救われた人たちもたくさんいます。

私は美樹の母が天に召される数か月前に、ここで彼女に洗礼を授けたことを未だに覚えています。本当に神は家族を通して働かれます。このようなことが起こること、そして何度も繰り返されるということが、神がいかに誠実なのかを示しています。

パウロは私たちに思い出させます。福音伝道は家庭から始まる、ということ。私たちの信者でない家族は汚れた状態ではなく、イエスを通して、変えられるために聖別された人たちとして見なされています。

皆さんの中でこれが起きるのをまだ待っている方々がいると思います。あきらめないでください。主は誠実な方です。

また、皆さんの中でまだクリスチャンでない方もいらっしゃいます。しかし、家族の影響で今日ここにいらっしゃいます。聖書ではあなたは聖別されていると書いてあります。それはあなたもイエスを通して救いが与えられるためです。今日救いを受け入れませんか。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1125jp

★クラス 201
霊的に成長するために
3月9日(日)1pm - 5pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了したメンバーの方

★クラス 210
スモールグループについて学ぼう
4月13日(日)1pm - 5pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

奉仕者募集中！

1．日本語訳字幕作成（1名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1，2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2．週末礼拝メッセージ翻訳（3名募集）
1 か月半に 1 度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
スキル：英語と日本語が堪能な方

3．日本語訳レイアウト＆印刷（女性 2 名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。